

平成 26 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社エイアンドティー  
代表者の役職氏名 代表取締役社長 三坂成隆  
(コード番号：6722)  
問 い 合 わ せ 先 取締役経営管理本部長 吉村佳典  
電 話 番 号 045-440-5810 (代)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成 26 年 7 月 31 日開催の取締役会において、平成 26 年 2 月 10 日に発表いたしました平成 26 年 12 月期の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 平成 26 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	4,300	240	230	160	25 円 57 銭
今 回 修 正 (B)	4,343	445	431	285	45 円 62 銭
増 減 額 (B-A)	43	205	201	125	—
増 減 率 (%)	1.0%	85.5%	87.6%	78.4%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 平成 25 年 12 月期第 2 四半期	4,378	296	282	201	32 円 15 銭

## 2. 第 2 四半期累計期間業績予想修正の理由

当第 2 四半期累計期間の業績予想につきましては、売上高は概ね期初予想どおりに推移し、約 43 百万円増加する見込みであります。

利益面におきましては、主に検体検査自動化システムの大型案件の採算性向上に加え、業務委託を削減し内製化を推進する等、各製品系列の原価低減に取り組み、利益率が向上する見込みであります。また、販売費及び一般管理費につきましても、主に研究開発部門における業務委託の削減に努め、必要な経費の見極めを行い、全社を挙げて不要不急の経費削減に取り組んでおります。その結果、営業利益は約 205 百万円、経常利益は約 201 百万円、四半期純利益は約 125 百万円増加する見込みであります。

### 3. 平成 26 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想（A）	9,300	700	670	400	63 円 93 銭
今回修正（B）	9,400	870	840	500	79 円 91 銭
増減額（B－A）	100	170	170	100	—
増減率（％）	1.1%	24.3%	25.4%	25.0%	—
（ご参考）前期実績 平成 25 年 12 月期	9,221	742	716	471	75 円 29 銭

### 4. 通期業績予想修正の理由

通期の業績予想につきましては、売上高は期初予想より約 100 百万円増加する見込みであります。主な増減要因として、臨床検査機器システムは大型案件の稼働延期や失注等により約 60 百万円減少し、臨床検査試薬は主に OEM 販売が約 90 百万円減少する見込みであります。一方、OEM 供給の消耗品は検体検査装置の累計稼働台数が増加したことにより堅調に推移し、約 100 百万円増加する見込みであります。また、検査室全体に関する総合提案の案件が増加したこと等から他社製品の販売が約 150 百万円増加する見込みであります。

利益面におきましては、臨床検査情報システム、検体検査自動化システムの大型案件の採算性向上に努め、各製品における原価低減策をさらに推進することにより、増収による売上原価の上昇を抑え、全体の利益率向上を目指してまいります。また、販売費及び一般管理費は引き続き業務委託等の削減に努め、約 70 百万円減少する見込みであります。その結果、営業利益、経常利益は約 170 百万円増加し、当期純利益は約 100 百万円増加する見込みであります。

（注）上記の予想につきましては、現時点で得られた情報に基づいて作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

以 上